

佛書解說大辭典

大東出版社藏版



昭和8年11月20日 初版発行
昭和39年10月30日 改訂発行
昭和55年6月10日 重版発行

仏書解説大辞典 第七巻
¥ 7000

版權
所有

編纂者 小 野 玄 妙
発行者 岩 野 真 雄
印刷者 村 雲 二 郎

発行所 株式会社 大東出版社

東京都文京区白山1丁目37番10号
電話 (816) 7607

印刷所 株式会社 平 文 社

3515-050007-4384

本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論文一文の小冊子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に内容解説を施し、且つその所在を明示したものである。

二、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。即ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮内省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より偽經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採録した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。即ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其内容解説にあつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解説をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解説するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類即ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出来る丈内容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形體はその要點を次の十項目とした。即ち、①題名、書名、具名略名異名併記。②巻數。③存、缺。④著者又は譯者、生存年代を併記。⑤著作年代又は譯出年代。⑥内容解説。⑦末書（注釋書參考書）。⑧寫刊の年月。⑨現所藏者、圖書館書庫名。⑩發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は⑧⑨を省略し、第三類は特に⑨の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は⑩の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は⑦の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が⑥に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

- ①、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本語、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本語の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に従つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異なる點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に従つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼目錄—昭和四年刊）に従ふことにした。
- ②、巻數は其典籍の巻數を記したが、丁卷の異なる場合あるものは一々これを附記した。
- ③、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收巻數、全書類は其所載巻號を記した。而して各種藏經及び目錄

には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。Z——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄（法經等撰）。仁壽錄——衆經目錄（彥棕撰）。靜泰錄——衆經目錄（靜泰撰）。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋教錄。貞元錄——貞元新定釋教目錄。佛全——大日本佛教全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

①、著者又は譯者は其人の生存年代を出来る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に譲るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西曆を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中——線を用ひ、「年代——年代」なるは生死年を、「年代——」は生年、「——年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「——年代——」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「？」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸説あるものは其中の一を採用若しくは一説として別出したものがある。

⑤、著作年代は著作若しくは譯出の年號を記入した。

⑥、内容解説は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典翻譯に關する歴史的説明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所にて説明した。例へばこの部「俱舍論」ではその題下に具名「阿毗達磨俱舍論」と記し、詳細なる解説はアの部「阿毗達磨俱舍論」に於てなしたるが如し。

⑦、注釋書參考書は典據を出来る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に従つて列舉した。

⑧、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

⑨、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の函號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都（東寺）專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮内省圖書寮。寶龜院——高野山寶龜院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下に數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者（書庫）、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

ソ

祖韻敬廣

① (日) So-in-kei-ka. ② 二卷 ③ 存 ④ 玄機與龍(享保五—文化一〇 A.D. 1723—1813) ⑤ 享和二刊 ⑥ (駒大)

祖英集

① (日) So-ei-shu. (支) Tzu-ying-chi. 慶元府雪竇明覺大師祖英集、明覺禪師語錄 ② 六卷 ③ 存 ④ 仁三・二・一 ⑤ 宋雪竇重顯(太平興國五—皇祐四 A.D. 980—1052) ⑥ 明覺禪師語錄(下)を見よ。

慶安三刊

① (駒大) (龍大) (一〇五・一・四) (京大) (二五・一・一) (帝國) (八二・一・四) (哲) (二・二・一)

祖英集

① (日) So-ei-shu. 國譯祖英集 ③ 存、國譯禪宗叢書第六

祖英集骨董

① (日) So-ei-shu-kot-10 ② 一卷 ③ 存 ④ (參考) 禪籍目録

祖雄禪師之行實

① (日) So-ō-zen-jin-ō-gyō-jissu. 遠溪祖雄禪師之行實 ② 一卷 ③ 存、續群書類從第九、浮木集第一 ④ 釋道演編 ⑤ 遠溪祖雄禪師之行實(下)を見よ。

祖苑聯芳集

① (日) So-on-rem-yō-shū. 重刊貞和類聚祖苑聯芳集、貞和類聚祖苑聯芳集、貞和集 ② 五卷或十卷 ③ 存、大日本佛教全書第一四三 ④ 義堂周信(正中二—嘉慶二 A.D. 1325—1383) ⑤ 重刊貞和類聚祖苑聯芳集(下)を見よ。

祖園貫華集

① (日) So-on-kwan-ge-shu. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(駒大)

祖記雜篇

① (日) So-ki-zap-pen. ② 一卷 ③ 存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四 ④ 黃不動尊之事、聖主御入境之事、彩色曼荼羅之事、胎藏八葉東方佛位之事の四雜篇を輯む。

祖規復古雜纂

① (日) So-ki-fuk-ko-zak-ko. ② 一卷 ③ 存 ④ 支邊印中(—文化四 A.D. 1807) 撰 ⑤ 寛政八刊 ⑥ (駒大) ⑦ 越前、永平寺

祖授符禪師語錄附出華集

(日) So-ki-fu-zen-j-go-toku-tsuketari-gan-ke-shū. ③ 存 ④ (參考) 禪籍目録

祖曉和尚法語

① (日) So-gyō-o-shō-hō-go. ② 一卷 ③ 存 ④ 天巖祖曉(寛文七—享保一六 A.D. 1667—1731) 語 ⑤ 寫本(駒大)

祖訓入用書

① (日) So-kun-nyū-yō-shū. ② 一卷 ③ 存 ④ (參考) 禪籍目録

祖溪和尚末後事實

① (日) So-kei-o-shō-matsu-go-no-j-jissu. ② 一卷 ③ 存 ④ 淨通述 ⑤ 寶永八刊 ⑥ (駒大)

祖源記

① (日) So-gen-ki. (文) Tsu-yuan-chi. ② 三卷 ③ 宋慧覺悟王(—宣和六 A.D. 1124—) 撰 ④ (參考) 諸宗章疏錄第二

祖語並智度論拔書

① (日) So-go-narabini-chi-do-ron-nuki-gaki. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(京大) 印哲・S・III (三四)

祖師以來御由緒

① (日) So-shi-i-rai-go-yū-sho. ② 一卷 ③ 存 ④ 延享三

寫 ① (龍大、別置)

祖師一生活業記

① (日) So-shi-is-shō-gyō-gō-ki. 比叡山元初祖師行業記、祖師行業記 ② 一卷 ③ 存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四 ④ 圓珍(弘仁五—寛平三 A.D. 844—891) 記 ⑤ 比叡山元初祖師行業記(下)を見よ。 ⑥ (參考) 本朝台祖撰述密部書目

祖師御作要文並御詠歌

① (日) So-shōn-saku-yō-mon-narabini-go-ei-ka ③ 存 ④ 傳、蓮如(應永二二—明暦八 A.D. 1445—1499) ⑤ 惠空寫傳本(龍大、研真)

祖師方御起請文寫

① (日) So-shi-gata-go-ki-shō-mon-usushi. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(帝國) (一一七・六九)

祖師忌日及野澤十二流血脈

① (日) So-shi-ki-nichi-oyobi-ya-taku-jā-ni-ryū-kechi-miyaku. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(谷大、餘大・三二九)

祖師行業記

① (日) So-shi-gyō-gō-ki. 比叡山元初祖師行業記、祖師一生活業記 ② 一卷 ③ 存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四 ④ 圓珍(弘仁五—寛平三 A.D. 844—891) 記 ⑤ (參考) 諸宗章疏錄第二

祖師觀

① (日) So-shi-kwan. ② 一卷 ③ 存 ④ 小川獨笑著 ⑤ 明治四三刊

祖師五百五十回御遠忌初中後日中法會之次第

① (日) So-shi-go-hyaku-go-jik-kwai-go-en-ki-shō-chū-hyaku-go-nic-chū-hō-e-no-shi-dai. ② 一卷 ③ 存 ④ (龍大、研真)

祖師親鸞聖人御頂骨緣起

① (日) So-shi-shin-ran-shō-nin-go-chō-kotsu-en-gi. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(龍大、研真)

存 ① 舊阿記 ② 寫本(龍大、別置)

祖師五百五十回御遠忌法會次第

① (日) So-shi-go-hyaku-go-jik-kwai-go-en-ki-shō-e-shi-dai. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(龍大、一〇六・三二)

祖師御忌日

① (日) So-shi-go-ki-nichi. ② 一帖 ③ 存 ④ 徳川時代寫 ⑤ (寶龜院)

祖師御點淨土論註

① (日) So-shi-go-ten-jō-do-ron-chū. ② 二卷 ③ 存 ④ 曇鸞の淨土論註に、眞宗開祖親鸞が御點を施したるにして、原本現に西本願寺に藏す。

祖師三朝傳辨論

① (日) So-shi-san-chō-denn-ben-ron. ③ 存 ④ 泰嵩述 ⑤ 寛永元刊 ⑥ (龍大、研真)

祖師聖人御直作聖德太子略緣起

① (日) So-shi-shō-nin-go-jiki-sa-ka-shō-toku-tai-shi-yaku-en-gi. ③ 存 ④ (龍大、二九六・五・三二二)

祖師聖人御傳謝德記

① (日) So-shi-shō-nin-go-densha-tok-ki. ② 二卷 ③ 存 ④ 德應(萬治二—享保一七 A.D. 1659—1732) 記 ⑤ 明治三九刊 ⑥ (龍大、一九六・一・七九)

祖師聖人年譜

① (日) So-shi-shō-nin-nem-pu. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(谷大、宗大・三二二)

祖師親鸞聖人御頂骨緣起

① (日) So-shi-shin-ran-shō-nin-go-chō-kotsu-en-gi. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(龍大、研真)

大別置)

祖師親覽附歷代宗主傳

①(日)So-shi-shin-ran-tsuketari-reki-dai-so-shu-den. ②一卷 ③存 ④吉田左川、田中紫浪共著 ⑤明治四四刊 ⑥(京大、一・二一・八)

祖師代々事

①(日)So-shi-dai-dai-no-koto. ①流之義條々 ②一卷 ③存 ④大正六寫 ⑤(谷大・二〇五五)

祖師傳

①(日)So-shi-den. ②一卷 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A.D. 767—823)撰 ④(參考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述篇目集卷上

祖師傳來口傳

①(日)So-shi-den-zai-ku-den. 祖師傳來口傳實錄口 ②十一卷 ③存 ④永正六寫 ⑤(金剛三昧院)

祖師排韻

①(日)So-shi-hai-in. ②二冊 ③存 ④寫本(哲・二・右・三)

祖師碑文傳等鈔

①(日)So-shi-i-mon-den-tō-shō. ②一軸 ③存 ④平安中期寫 ⑤(高・大・寄・一・二四)

祖師一口法語

①(日)So-shi-hito-kuchi-tō-go. ③存、佛教古典叢書第一

禿氏斷解說

①(日)So-shi-hon-den-i-hon-e-den-satsu-yō. 高田親鸞聖人繪傳撮要、親鸞聖人繪傳撮要

三卷

③存 ④普門(寛永一三一—元祿五 A.D. 1636—1692)述 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥元祿七刊(谷大・二二〇)寫本(谷大・一四三)(龍大・研眞・研史)

三〇寫本

(谷大・一四三)(龍大・研眞・研史)

祖師本傳異本著聞鈔

①(日)So-shi-hon-den-i-hon-cho-mon-shō. 佛光寺繪詞傳著聞鈔 ②五卷 ③存 ④(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑤延寶六刊 ⑥(谷大・宗大・一一三五)(龍大・一九六一・九一一) 祖師本傳異本傳繪鈔 ①(日)So-shi-hon-d-n-i-hon-denn-e-shō. 善信聖人傳繪鈔 ②三卷 ③存 ④惠雲(慶長一八—元祿四 A.D. 1613—1691)述 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥慶安四刊 ⑦(龍大・一九六一・八八)(谷大・宗大・一八四) 祖師本傳一代記 ①(日)So-shi-hon-den-ichi-dai-ki. ②八卷 ③淨土眞宗教典志第二に曰く「不置撰號。增補祖述、兼解繪相、間有疑誤、云々。」

祖師本傳繪解

①(日)So-shi-hon-den-e-ge. ②八卷 ③存 ④正徳二(A.D. 1712)刊 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥正徳六刊(龍大・一九六一・五六)安政三刊(龍大・一九六一・五七)

祖師本傳繪說詞略鈔

①(日)So-shi-hon-den-e-seisu-shi-ryaku-shō. 御傳繪說詞略鈔 ②五卷 ③存 ④信州長命寺乾外繁勝作 ⑤元祿八(A.D. 1693)刊 ⑥(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑦寶永八刊(龍大・一九六一・六八、研眞)寫本(谷大・宗大・一三四三)

祖師本傳繪說思敬錄

(日)So-shi-hon-den-e-seisu-shi-kyō-roku. ②一卷 ③伊勢持光信天作 ④(參考) 淨土眞宗教典志第二

祖師本傳開蒙鈔

①(日)So-shi-hon-den-kai-mō-shō. 祖師聖人御傳謝德記、御傳謝德鈔、謝德鈔 ②七卷 ③存 ④德應(萬治二—享保一七 A.D. 1659—1733)述 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥明治三九刊(二卷)(龍大・一九六一・七九、研眞・研史)(谷大・宗大・一九九)寫本(六卷)(谷大・宗大・一八一五)

祖師本傳古義仰高記

①(日)So-shi-hon-den-ko-gi-gō-kō-ki. ②四卷 ③持光信天作 ④(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑤(日)So-shi-hon-den-shi-ki. ②五卷 ⑥淨土眞宗教典志第二に曰く「或曰「便蒙」不置撰號。慶安三年庚寅六月梓云々。」

祖師本傳指示記

①(日)So-shi-hon-den-shi-ji-ki. 御傳繪指示記、御傳指示記 ②一卷 ③存 ④先啓(享保五—寛 A.D. 1723—1797)述 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥天明三刊(谷大・宗大・一二三〇)天保一五刊(龍大・一九六一・七八)

祖師本傳視聽記

①(日)So-shi-hon-den-shi-chō-ki. 御傳繪視聽記 ②七卷或五卷 ③存、眞宗大系第三 ④(參考) 正保元—享保六 A.D. 1644—1721)述 ⑤寶永元(A.D. 1704)八月 ⑥(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑦正徳四刊 ⑧(谷大・宗大・五八三)(龍大・研眞)

祖師本傳鈔

①(日)So-shi-hon-den-shō. ②二卷 ③(參考) 淨土眞宗教典志第二 ④(參考) 淨土眞宗教典志第二

祖師本傳照蒙記

①(日)So-shi-hon-den-shō-mō-ki. 御傳繪照蒙記 ②九卷 ③存 ④知聖(寛永一一—享保三 A.D. 1634—1718)述 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥寛文四刊(龍大・一九六一・六三一六四)寛文一一刊(龍大・一九六一・六五一六六、研眞)刊本(谷大・宗大・一〇六七)

祖師本傳大旨

①(日)So-shi-hon-den-tai-shi. 傳繪大意 ②一卷 ③存、眞宗全書第六 ④僧撰(享保四—寶曆一二 A.D. 1719—1763)説、門人録 ⑤淨土眞宗教典志卷二に曰く「寶曆三年十一月十九日應玄應請、演述上卷。明年十一月十九日應傳瑞請、演述下卷。傳瑞呈之講主。主燈明之。」云々。

祖師本傳探證記

①(日)So-shi-hon-den-tan-shō-ki. 本願寺聖人傳繪探證記、本願寺聖人繪詞傳探證記 ②十卷 ③存 ④空齋(慶長八—元祿五 A.D. 1603—1692)述 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥寛文五刊 ⑦(龍大・一九六一・九三、研眞)(谷大・宗大・一一八九)

祖師本傳讀法

①(日)So-shi-hon-den-doku-hō. ②一卷 ③幻有作 ④(參考) 淨土眞宗教典志第二

祖師本傳報恩鈔

①(日)So-shi-hon-den-hō-on-shō. 御傳報恩鈔 ②十卷或九卷 ③存 ④知電述 ⑤(參考) 淨土眞宗教典志第二 ⑥明治四一寫(谷大・宗大・一一六四)寫本(龍大・一九六一・八三三)

祖師名簿

①(日)So-shi-na-i-bo. ②一帖 ③存 ④寫本(寶龜院)

祖俊和尚開堂語錄

○(日) So-shun
o-sho-kai-do-go-roku. 加州大衆寺祖俊

和尚開堂語錄 ① 1 卷 ② 存 ③ 祖俊語
④ (參考) 禪籍目錄

祖書 ① (日) So-sho. ② 1 卷 ③ 存

④ 日蓮貞應元—弘安五 A.D. 1222—1282)
撰 ⑤ 刊本(立大 A.O.1.三五)

祖書圖智註 ① (日) So-sho-en-chi-
cha. ② 十八卷 ③ 存 ④ 圖智日性(—永

祿九 A.D. 1565—)述 ⑤ 寛永二二刊 ⑥
(京大、日大末、五三七)

祖書圖智註拔萃 ① (日) So-sho-en-
chi-chu-bas-sui. 十部祖書緊要祖書圖智

註拔萃 ② 二卷 ③ 存 ④ 圖智日性(—永
祿九 A.D. 1565—)述 ⑤ 昆尼薩合殿拔萃

⑥ 明治一五刊 ⑦ (谷大、餘小、一〇)

祖書肝要集 ① (日) So-sho-kan-i-
yo-shu. ② 二卷 ③ 存 ④ 日蓮(貞應元—

弘安五 A.D. 1222—1282)撰 ⑤ 天保三刊
⑥ 立大、A.O.1.六〇—六二(一、二〇〇) (龍

大、二六九一、五)哲、え、三、右、八)

祖書見聞 ① (日) So-sho-ken-mon.
② 1 卷 ③ 存 ④ 日忠述 ⑤ 原本(信陰日

秀藏)寫本(立大、D.O.二三三)

祖書見聞 ① (日) So-sho-ken-mon.
② 1 卷 ③ 存 ④ 廣藏日辰述 ⑤ 寫本(立

大、D.O.二四三)大正二刊(立大、D.O.一六
八)

祖書健鈔拔萃 ① (日) So-sho-ken-
sho-bas-sui. 十部祖書緊要祖書健鈔拔萃

② 三卷 ③ 存 ④ 日健述、昆尼薩合殿拔萃
⑤ 明治一五刊 ⑥ (帝國、六六、一四一) (哲、

外、一、中、五) (谷大、餘小、九)

祖書綱要 ① (日) So-sho-kyo-yo. ②
二十三冊 ③ 存 ④ 日導(享保九—寛政元

A.D. 1724—1789)作、小林日董(—明治三
八 A.D. 1905)訂 ⑤ 明治三五刊 ⑥ (立大、

A.O.四、一一、一一、一二) (帝國、二二四、七八
八) ⑦ 網要刪略 ⑧ (日) So-sho-kyo-

yo-san-ryaku. ② 七卷 ③ 存 ④ 日導享
保九—寛政元 A.D. 1724—1789)作、日壽

刪 ⑤ 享保二刊(立大、A.O.四、三一、四、六一
七) (谷大、餘大、二九一) 明治四三刊(龍大、

研佛)立大、B.O.九、一五一—一六) (京大、印
哲、N.五) (高大、寄、一、一七) (哲、え、二、

左、二) (大正九刊(立大、B.O.四、一三五)

祖書綱要刪略拔萃 ① (日) So-sho-
kyo-yo-san-ryaku-bas-sui. ② 存、佛教大

系第二八 ③ 日壽享保九—寛政元 A.D.
1724—1789)

④ 徳川末期の巨匠日導の「祖書綱要刪略」を
拔萃したもの。

祖書綱要正議 ① (日) So-sho-kyo-
yo-shu-gi. ② 二卷 ③ 存 ④ 日輝(寛政

一一—安政六 A.D. 1800—1855)述 ⑤ 明
治一一寫(立大、A.O.四、八) 明治一四刊(谷

大、餘大、八九四) (立大、D.O.一、一六) 明治
三刊(立大、A.O.四、一〇—一、D.O.一

一七) 明治三三刊(龍大、二六九一、六) (帝
國、一八七、三三) (立大、A.O.四、九)

祖書續仰 ① (日) So-sho-san-kyo. ②
1 卷 ③ 存 ④ 祖山學院同窓會編 ⑤ 明治

三九刊(立大、B.O.一、一六一—一七、二三、三
三) (谷大、餘洋、二〇八) (帝國、一八七、四四

〇) (京大、日大末、五三六)

祖書拾遺和語記 ① (日) So-sho-
shu-i-wa-go-ki. ② 1 卷 ③ 存 ④ 日性

(—永祿九 A.D. 1565—)編 ⑤ 明治一六
刊 ⑥ (立大、A.O.11、二八) (谷大、餘大、一

一六) (龍大、二六九一、七) (帝國、一四一、
一九九)

祖書證義論 ① (日) So-sho-sho-gi-
ron. ② 九卷 ③ 存 ④ 大正二寫 ⑤ (立

大、D.O.一、三六)

祖書續集 ① (日) So-sho-zoku-shu.
御書續集 ② 三卷 ③ 存 ④ 日蓮(貞應元

—弘安五 A.D. 1222—1282)撰、日英編
⑤ 天保一三刊 ⑥ (立大、A.O.1.二四) (正

大、一八三、一三) (谷大、餘大、二九〇) (哲、
え、三、右、二)

祖書拔萃御傳記集 ① (日) So-sho-
bas-sui-go-den-ki-shu. ② 1 卷 ③ 存

④ 小見山三學編 ⑤ 明治三四刊 ⑥ (立大、
A.O.六、三四—三五)

祖書編輯考 ① (日) So-sho-hen-shu.
② 1 卷 ③ 存 ④ 勇猛日庵撰 ⑤ 寫

本(谷大、餘大、二九三) (立大、A.O.1.一〇
三一—一〇六) (哲、え、三、右、二)

祖書本勝篇 ① (日) So-sho-hon-shu.
② 1 卷 ③ 存 ④ 本昌日達撰 ⑤ 寫

本(立大、D.O.二〇〇)

祖書目次 ① (日) So-sho-moku-ji.
本化高祖御書目次 ② 1 卷 ③ 存 ④ 健立

日諦(—天明元 A.D. 1781)錄 ⑤ 弘化三刊
(立大、A.O.1.一一、一二、一二九) (谷大、餘大、
三〇一) (龍大、二六九一、八) (哲、え、三、右、

一一) 寫本(龍大、研史) (京大、一、二〇、八、
三)

祖書要津 ① (日) So-sho-yo-shin.
② 三卷 ③ 存 ④ 日臨(本妙) (天明七—文

政五 A.D. 1787—1823)編 ⑤ 明治一四刊
⑥ (谷大、餘大、五六四) (立大、A.O.1.二九

一三、一、一五、一三〇) (龍大、二〇四、一一
九) (帝國、一四一、八四)

祖書錄外 ① (日) So-sho-roku-ge.
御書錄外、錄外御書 ② 二十五卷 ③ 存

④ 日蓮(貞應元—弘安五 A.D. 1222—1282)
⑤ 日蓮の遺文として傳はるもの四百餘篇あり、
其内日蓮入滅一週忌に集録した一百四

十八篇を「餘内御書」と名け、次に第三回
忌以後に於て前輯に漏れたものを集録して

これを「錄外御書」「御書錄外」と名けたり
と傳ふ、二百五十九篇を含む、寛文二年始

めて全部が二十五卷として版行せられ、後
「高祖遺文錄」「日蓮聖人御遺文」等に收め

られてゐる。

⑥ 刊本(谷大、餘大、九〇九) (馬田行啓)

祖書錄外考文 ① (日) So-sho-roku-
ge-to-mon. 錄外御書啓蒙 ② 八卷 ③ 存

④ 觀壽日輝編、小林是純制定 ⑤ 明治一九
刊 ⑥ (立大、A.O.11、四〇四—四一六、一

一二、D.O.七七) (帝國、八、六〇)

祖書錄外微考 ① (日) So-sho-roku-
ge-mi-ko. ② 1 卷 ③ 存 ④ 日妙 ⑤ 明

治一五刊 ⑥ (帝國、一四〇、一九六)

祖書錄内 ① (日) So-sho-roku-nai.
御書錄内、錄内御書 ② 四十卷 ③ 存 ④
日蓮(貞應元—弘安五 A.D. 1222—1282)

①日蓮の遺文として傳はるもの四百餘篇あり、其内一百四十八篇は日蓮入滅一週忌に集録したもの傳へられ、これを「録内御書」「御書録内」「祖書録内」等と名けて居る、元和元年初めて録内御書全部を四十卷として版行した。これを「本國寺版」と稱す。後再版増補せられ、又「高祖遺文録」「日蓮聖人御遺文」等に收められてゐる。「觀心本學鈔」「開目鈔」「立正安國論」「報恩鈔」「撰時鈔」の五大部を始め、遺文中に於て最も重要な部分を含んでゐる。

②寛文九刊(寶曆六補) ③(谷大、餘大・九〇八)立大、A〇一・八六 (馬田行啓)

④祖書録内外目録 ⑤(日) So-sho-roku-nai-ge-hoku-roku. ⑥一卷 ⑦存

⑧明治二七寫 ⑨(立大、A〇二・一〇九)

⑩祖書録内扶老 ⑪(日) So-sho-roku-nai-furo. ⑫録内扶老 ⑬十五卷 ⑭存

⑮日好(明曆元一享保一九 A. D. 1653—1734)述

⑯日蓮の遺文を輯めた「録内御書」に註釋したもので、日蓮遺文研究に必須な良書。卷一立正安國論、卷二三開目鈔、卷四撰時鈔、卷五報恩鈔、卷六觀心本學鈔、卷七法華取要鈔、本は問答鈔、守護國家論、卷八、法華題目鈔、唱法華題目鈔、顯勝法鈔、卷九一代大意鈔以下十一卷、卷十四條金吾許御書以下二十九卷、卷十一持法華問答鈔以下十三卷、卷十二太田神問書以下二十二卷、卷十三法門可被申事以下二十卷、卷十四法華眞實勝劣書以下五卷、卷十五一念三千理事以下二十三卷。

⑰明治四四刊 ⑱(谷大、餘洋・三五六) (馬田行啓)

⑲祖書録内扶老拔萃 ⑳(日) So-sho-roku-nai-fu-rō-bas-sui. ㉑十部祖書要祖書録内扶老拔萃 ㉒四卷 ㉓存 ㉔日好

㉕(明曆元一享保一九 A. D. 1653—1734)尼薩台殿拔萃訂正 ㉖明治一五刊 ㉗(立大、A〇二・二三) (哲外・一・中・一六) (谷大、餘小・一一)

㉘祖心尼公法語 ㉙(日) So-shin-ni-hō-to-go. ㉚一卷 ㉛存、近世佛教集說之内 ㉜齊藤阿能述 ㉝大正五刊 ㉞(駒大)(谷大、餘洋・四二四)

㉟祖跡を訪う ㊱(日) So-seki-o-to-ite. ㊲一卷 ㊳存 ㊴善導大師遺跡參拜團編 ㊵昭和三刊 ㊶(正大、一〇四・五一)

㊷祖蹟跋文 ㊸(日) So-seki-batsu-mo-ni. ㊹一卷 ㊺存 ㊻願覺微定(文化一一一明治二四 A. D. 1814—1891)撰 ㊼(參考) ㊽大日本佛教全書續刊決定書目

㊾祖像讚 ㊿(日) So-zō-san. ㊽一卷 ㊾林道春(天正一一一明曆三 A. D. 1583—1657)撰 ㊿(參考) 淨土眞宗教典志第二

㊽祖像讚銘 ㊾(日) So-zō-san-me-i. ㊿一卷 ㊽存、眞宗法義之内

㊾眞宗の祖像の讚銘を蒐録せるものにして、先づ「安靜眞像銘文六首并真書」には親鸞聖人安靜の御影の銘文と真書を寫し、反古裏書の安靜の銘に關する文を引抄してある。次に「七祖眞像贊」には龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・源空の讚銘と聖德太子の讚銘二文が添付せられてある。

⑰刊本(谷大、宗大・二五三六) (龍大、一〇三・二二) (荻生隆三)

⑱祖庭鉗鎚錄附宗門雜錄 ⑲(日) So-tei-kan-tsui-roku-tsuketari-shū-mon-zassu-roku. (支) Tsu-ting-chien-ch'i-ri-lu

⑳二卷 ㉑存、己續二・一九・五、慨古錄之内 ㉒明治通容萬曆二一永曆一五 A. D. 1593—1661)輯

㉓密雲圓悟禪師の法嗣である費隱通容禪師が、祖師が學人を鍛鍊接得せられた語要を編録し、それを學人に了會し易からしめんが爲め懇切に説示し兼ねて自己の見解を述べられたものである。全二卷、上卷には靈源

惟深禪師の儉心の提撕より晦菴彌光禪師に至る三十師の提撕を掲げ、下卷に懶菴鼎需禪師より大慧宗杲禪師に至る二十一師の提撕を掲げ、一一に唱和し勘驗したものである。附録の宗門雜錄は、(一)拈花微笑の典故、(二)自總禪師が達觀曇穎禪師に問ふた五問(師資相傳斷絶の事、達磨大師の楞伽經四卷將來の事、傳法偈の事、天台の一心三觀を祖意より如何に觀るかと云ふ事、六祖大鑑下に諸家分出した理由)、(三)覺夢堂重校の五家宗派序、(四)禪家の一喝五教を分つ事などの四條を採録したものである。

㉔寫本(京大、藏・二四カ・三)刊本(内閣) (大久保堅瑞)

㉕祖庭指南 ㉖(日) So-tei-shi-nan. (支) Tsu-ting-chi-nan. 祖庭傳指南

㉗二卷 ㉘存、己續二・二・一一・三 ㉙清徐昌治編 ㉚順治九(A. D. 1652)

㉛南岳第三十五世費隱通容禪師に參ずること二十餘年、遂に費隱によつて付法せられた徐昌治居士が、七佛、西天二十八祖、東土の六祖及び南嶽慧禪禪師より相傳三十五世にして本師費隱通容禪師に至る佛祖傳の芳躅を編み、師資機縁の語要を録して祖庭の學人の爲めに指南たらしめんとしたもので、内題に祖庭嫡傳指南と云ひ、略して祖庭指南と云ふのである。本師費隱禪師の題語、其の法嗣たる金粟の百癡行元禪師の評語及び跋を得、費隱禪師の徐昌治に與へた付法語偈及び徐昌治の和偈とを付刻して、清順治九年九月九日(A. D. 1652)自序して行つたものである。

徐昌治は號觀周、別號無依道人、法名通昌と云ひ、浙江杭州府海寧縣鹽官の人で、初め儒を學び、明崇禎十一年費隱禪師の金粟に開法するや、參じて隨從となり、天童、福嚴、徑山と費隱の住山に従つて參問二十餘年に及び遂に付法せられたもので、隱元隆琦、百癡行元禪師など並に居士王谷、嚴大參、嚴斌などと共に費隱會下の俊英で著作に高僧摘要、無依道人錄等がある。

㉜(參考) 禪籍志卷下 (大久保堅瑞)

㉝祖庭事苑 ㉞(日) So-tei-jon. (支) Tsu-ting-shi-yuan. ㉟八卷 ㊱存、己續二・一八・一 ㊲宋陸庵善卿(一元符頃 A. D. 1098—1100)編

㊳雲門錄、雲門室中錄、雪竇洞庭錄、雪竇後錄、雪竇瀑泉等、雪竇拈古、雪竇頌古、雪竇祖英集、雪竇開堂錄、雪竇拾遺、懷禪師前錄、懷禪師後錄、池陽百問、風穴衆吼

⑰南岳第三十五世費隱通容禪師に參ずること二十餘年、遂に費隱によつて付法せられた徐昌治居士が、七佛、西天二十八祖、東土の六祖及び南嶽慧禪禪師より相傳三十五世にして本師費隱通容禪師に至る佛祖傳の芳躅を編み、師資機縁の語要を録して祖庭の學人の爲めに指南たらしめんとしたもので、内題に祖庭嫡傳指南と云ひ、略して祖庭指南と云ふのである。本師費隱禪師の題語、其の法嗣たる金粟の百癡行元禪師の評語及び跋を得、費隱禪師の徐昌治に與へた付法語偈及び徐昌治の和偈とを付刻して、清順治九年九月九日(A. D. 1652)自序して行つたものである。

集、法眼錄、蓮華集、八方珠玉集、永嘉證道歌、内より故事、成語、名數、人名、略字、誤字等を檢出して、一々註解を加へたるものにて、第八卷は十玄談について序、辨題目、立題、心印其他九項を釋し、釋名義辨の條下七佛、傳燈等の釋、外祖師の職の註を擧げ、語錄の條下阿闍闍外二十項を擧げ、雜志の條下宗門等三十項を出して居る。

⑥(參考) 禪籍志卷下 ⑦正保四刊(京大、藏・一七・二)(谷大、餘大・一四八二)(哲、あ・六・五)(駒大、正大・一七〇・一一二)(龍大、二〇二・一五)(帝國、八二・三三)

⑧刊支本(駒大)刊本(谷大、餘丙・三)(京專)(内閣)(帝國、一七七・三四)古版(帝國、特別・四・貴)(寫本(谷大、餘大・一六八二))

(中谷在禪)
祖庭事苑 ①(H) So-tai-ion. (支) Tsu-ting-shih-yian. ②十卷 ③存 ④元見明(一至元一九九A.D. 1283-) ⑤(參考) 禪籍目錄

祖傳考 ①(H) So-tai-ion. ②一卷 ③存 ④藤井以正著 ⑤寶曆二刊 ⑥(京大・二・一・一)

祖傳要訣 ①(H) So-tai-ion. ②一卷 ③存 ④寫本(龍大)

祖傳翼讀 ①(H) So-tai-ion. ②一卷 ③存 ④道振(安永二一)文政七A.D. 1773-1834)述 ⑤寫本(龍大、一九六・一・八九)

祖燈紹光錄 ①(H) So-tai-ion. ②一卷 ③存 ④(支) Tsu-teng-shao-kuang-lu.

⑦(參考) 禪籍目錄

祖燈大統

①(H) So-tai-ion. (支) Tsu-teng-tai-tung. ②存 ③清代淨符(白巖) ④(參考) 禪籍目錄

祖燈錄

①(H) So-tai-ion. (支) Tsu-teng-lu. ②六十二卷 ③存 ④元行秀(萬松、報恩老人)(一承安頃 A.D. 1196-1200) ⑤(參考) 禪籍目錄

祖堂集

①(H) So-tai-ion. (支) Tsu-tang-shih. ②十卷 ③存 ④泉州招慶寺靜筠二師編 ⑤南唐保大十〇(A.D. 932)

⑥本書は、危く人間に蹤を絶たんとして漸く存した禪宗最古の燈史で、景德傳燈錄成立に先立つこと五十餘年に成つたものである。熾煌出土の古文獻の如きまでに禪宗史上に一大改訂を要求する程の價值を持たないが、他の新資料と相俟つて、古禪宗史研究に重大な寄與をなし得る。既に散佚せる古典籍の一部を傳へ、若しくは全く知られざりし古人の著書の名を傳ふる點に於ても、禪宗史研究家には必讀の書である。景德傳燈錄編纂に當つて、本書がかなり有力な、極言すればむしろその粉本となつたかの疑ひがある點、特に注目すべきである。

燈史とはいへ、招慶寺省燈禪師の序文に「編古今諸方法要集爲一卷」とある如く、宗旨の弘傳と主とし、史實の記録は甚だ詳密を缺いてゐる。例せば本書成立の當時、その編纂場たる泉州招慶寺に住し序文を與へてゐる省燈(本書序には文俊と署す)の師で、本書成立に先づ僅か二十餘年の天成三年(A.D. 932)に寂した保福從展の示寂を録してゐないことなどがそれである。

史料として貴重すべきものに、大願禪師と韓退之との交渉を傳へた、燈史としての唯一文獻のある事に注意したいが、就中特筆に價するは、海東宗師の傳を具録してあることである。恐らくは朝鮮禪宗史最古の史料であらう。傳燈錄に新羅高麗の禪僧三十餘員を目次に記録しながら、その中傳を立てゝある者は僅か十二員に過ぎず、しかもその傳は概ね數十字を出でぬにも拘らず、本書はこれを傳へて甚だ精細である。

史料としては、朝鮮禪宗史に關する外特筆すべきことはないが、法要を傳ふる點は頗る勝れたるものがあり、殊に歌行偈頌に就いて多くの關心が拂はれてゐる。これは招慶省燈が歌行偈頌に巧みで、泉州千佛新著諸祖頌の作者である等の影響であらうと思はれる。本書輯録の偈頌の大なるものを擧げれば、懶僊和尚樂道歌五言四十二句、騰々和尚樂道歌七言二十二句、開南和尚樂道歌七言二十四句、丹霞和尚弄珠吟五言三十八句、同和尚孤寂吟七言七十二句、同和尚龍珠吟七言三十二句、同和尚弄珠吟七言三十二句、同丹霞有一寶五言十六句、高城和尚古人重義頌七言七十句、等である。樂道歌三首の如く傳燈錄等に傳へられる者は、互照校勘するに足り、孤寂吟、重義頌の如き雄篇の傳へられたるは、喜ぶに足る。而して一宿覺和尚玄覺の傳に證道歌を載せず、且つ他の記載にも傳燈錄等と相當の徑庭ある點は注目して價する。又諸祖傳後に淨

修禪師讀曰として各一首八句の頌を録してあるのは、その文の泉州千佛新著諸祖頌の文と略々全同なるによりて、該書の考據を提供するものである。又朝鮮五冠山順之の圓相說、三遍成佛義等は、宗乘として興味深く、人天眼目卷四圓相起因以下數章との比較研究にも、資料を與へるものである。

又、佚書寶林傳に據つて記した部分の多いこと及び高城和尚に大乘教音義の著のあつたことの知れる等も、忘れてならぬことである。

未だ西天二十八祖、震旦六祖等の目を立てず、迦葉より慧能まで通じて世數を立て、慧能を三十三祖としてゐることは、泉州千佛新著諸祖頌との關係を知ると共に、熾煌本六祖境經が過去七佛より通じて慧能までの世數を數へ、慧能を第三十九祖となしてゐるのに對照して、二十八祖說に對する考證の端緒を暗示してゐる。その二十八祖は寶林傳の系統であつて當然のことながら傳燈錄と同一のものである。

本書の目次は高麗開版の折加へられたもので、目次の終りに、「海東新開印版祖堂集、現其本述者二百五十三員、并載於二十卷内、莫知述者不能具錄矣」とあるが、その員數には誤算があり、具錄されぬ祖師も、必ずしも述を知る莫き者ばかりではない。目次に見ゆる名は、重出を除いて二百五十七員、その中名のみ他の傳に附載せられて具錄されぬ者十餘員である。牛頭山六祖が僅かに慧融(法融)を録して、他の五祖は名のみ附載されてゐるが如き、又神秀普寂等

祖、素、組、率

が牛頭山智威四世の末鳥窠和尚傳に、名のみ附載するに過ぎざる如きは、所謂南宗系のみを録して、他を省略したものであることが知られる。

收録祖師は、慧能下には慧思(行思)、荷澤、慧忠、峨多三藏、智策、本淨、玄覺、惠讓の八師、荷澤の流は宗密に及び、馬祖下には大珠を始めとして三十二師を挙げ、雪峯下には二十一師を挙げてゐる。寂年の傳燈錄になくして本書にのみある者、傳の本書のみにある者も稀にはあるが、大體に於て傳燈錄の範圍を出てゐないから、これは略記に止めておく。終りに言ふ、現存の祖堂集は、すべて海印寺所藏の版本によりて摺製したもので、高麗開版當時の摺本は、まだ発見せられてゐない。しかし相當多數印刷されたもの、如く、版本は各所に磨滅の迹を存してゐる。東洋學苑第二輯(昭和八年四月一日發行)、祖堂集と禪宗古典籍、穴山孝道。東方學報東京第四冊、寶林傳の研究、常盤大定。朝鮮禪教史、忽滑谷快天者。參照

⑤高麗高宗三十二年(A.D.1245)分司大藏都監影造 ④(朝鮮總督府圖書館)(大正新修大藏經刊行會)(忽滑谷快天博士)。

(穴山孝道)

祖德讀頌

①(日)So-to-ku-san-ju. ②一卷 ③存 ④月潭道微 ⑤(參考)禪

籍目錄

祖德頌

①(日)So-to-ku-ju. ②一卷 ③破諦作 ④元祿元(A.D.1688)十一月二十八日 ⑤(參考)淨土真宗教典志第二

祖峰代

①(日)So-ho-dai. ②一卷 ③存 ④(參考)禪籍目錄

祖峰代鈔

①(日)So-to-dai-sho. ②二卷 ③存 ④(參考)禪籍目錄

祖門舊事記

①(日)So-mon-kuji. ②五卷(現存卷第二) ③存、真宗全書第六四 ④玄智(享保一九一寛政六A.D.1731-1794)撰 ⑤天明三(A.D.1783)

⑥本願寺の年中行事諸法會の差定、旁門並に諸末寺諸國別院、歷代の條制等に關する舊記を抄録せるもの、撰者の意は實情記や反故裏書を繼がん爲にものせるものの如く、天正十九年以降に於ける記録である、原本は五卷あり寫本で傳つてゐたが中古散佚三卷となり更に現存せるは第二卷一冊と、近く鷲尾教導氏によりて発見せられたる祖門舊事記殘篇一卷と都合二卷のみである。

⑦(參考)淨土真宗教典志第二 ⑧刊本(龍大、一九二・一三)寫本(龍大、別置)

祖門古今口碑雜錄 ①(日)So-mon-ko-kon-ku-hi-zatsu-roku. ②二卷 ③乘貞雲堂編 ④元祿一三(A.D.1700)八月

⑤(參考)淨土真宗教典志第二

祖門三部顯深義 ①(日)So-mon-san-bu-ken-jin-gi. ②一卷 ③存 ④嚴藏(安永四A.D.1775-)述 ⑤享和元寫

⑥(谷大、宗大・一八九一)

祖門剔蠹策 ①(日)So-mon-teki-doku-saku. ②一卷 ③異計新説若干條を彈擊したもの。 ④(參考)淨土真宗教典

志第二

祖門必讀 ①(日)So-mon-hisu-do-ku. ②一卷 ③存 ④南溪述 ⑤寫本(龍大)

祖林墮新 ①(日)So-rin-da-shin. ②一卷 ③存 ④無着道忠(承應二一延享元A.D.1633-1744)撰 ⑤(參考)禪籍目錄

素絹記 ①(日)So-ken-ki. 素絹由來並顯密流傳來由 ②一卷 ③存、大日本佛教全書第七四服具叢書第二 ④定珍述

⑤素絹衣がわが國に於て初めて慈惠大師に勅許せられたといふことより筆をおこし、天台と眞言とに於ける比較、素絹衣の色など四十九件に分て述べてゐる。(井川定慶)

素絹由來並顯密流傳來由 ①(日)So-ken-yu-rai-narabini-kem-mitsu-ru-da-rai-yu. 素絹記 ②一卷 ③存 ④定珍述 ⑤寛政四寫 ⑥(谷大、餘大、三一八九)

素衆威儀法 ①(日)So-shu-i-gi-ho. ③存 ④安永九刊 ⑤(龍大、研眞)

素衆常課式 ①(日)So-shu-jo-kwa-shiki. ③存、日課要訓附錄 ④刊本(龍大、研眞)

素性法師集 ①(日)So-sho-hos-shi-shu. ③存、群書類從第一〇和歌部第四

④戰國末期の歌仙、素性の歌集で一百餘首を収めてある。三十六歌仙の一で遍昭の子、良因朝臣と稱し、勅撰集中に六十五首が入つてゐる。其作には情熱を抑へながら力強くよんでゐるところに特色がある。(鎌田良賢)

素明和尚年譜

①(日)So-myō-o-shō-nen-pu. ②一卷 ③存 ④(參考)禪籍目錄

組織佛教論 ①(日)So-shiki-buk-kyō-ron. ②一卷 ③存 ④中西牛郎著 ⑤明治二三刊 ⑥(龍大、二五三・六)帝國、二三・一六二

率都婆 ①(日)So-to-ba. 率都婆六日理趣禮儀 ②一帖 ③存 ④正應五寫(金剛三昧院)

率都婆記 ①(日)So-to-ba-ki. ②二冊 ③存 ④快仙記 ⑤文化一〇刊 ⑥(高木、一・五七)

率都婆供養作法 ①(日)So-to-ba-ki-yō-sai-ho. ②一帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶壽院)

率都婆式八句秘釋 ①(日)So-to-ba-shiki-hak-ku-hi-shaku. ②一冊 ③存 ④德川初期寫 ⑤(金剛三昧院)

率都婆十種釋 ①(日)So-to-ba-jis-shu-shaku. 日率都婆式、率都婆式 ②一卷 ③存、興教大師全集、密嚴諸秘釋第二 ④覺鏡(嘉保二一康治二A.D.1093-1143)述 ⑤日率都婆式または率都婆式とも云ふ。毎日一本づゝの率都婆を建立供養する講式である。此の式は一段式でその中に率都婆の十種の功德を説きたる故に、率都婆十種釋とも名づけらるゝのである。率都婆は大日如來の三昧耶形にして同時に五佛の三昧耶形なれば、是れを造立供養すれば總ての功德が生ずるものとして十種に分けて説明したのである。(富田駿純)

率都婆婆 ①(日)So-to-ba-pa. ②

一卷 ③存 ④西阿述 ⑤刊本(谷大、宗大・六二七)

率都婆本義 ①(日)So-to-ba-hon-

②一冊 ③存 ④秦海微編 ⑤明治三〇刊 ⑥(高)大・一・五七

率都婆用意鈔 ①(日)So-to-ba-yō-i-shō. ②存、雜集錄之内 ③歸忍妙龍(寶永二)天明六 A.D.1705-1786 ④天明三刊(正大、一〇八・七九)嘉永二刊(正大、一〇八・七八)安政三刊(正大、一〇八・七七)(谷大、餘大・一二五二)(京專)(龍大研真)

率都婆要文 ①(日)So-to-ba-yō-mon. ②一冊 ③存 ④弘治二寫 ⑤(寶菩提院)

率塔婆開眼作法 ①(日)So-to-ba-kai-gen-sa-lō. ②一卷 ③存 ④明治二〇寫 ⑥(谷大、餘小・一〇一一)

疎山仁禪師根脚語訣 ①(日)So-zan-nin-zen-jī-kon-kyaku-go-ketsu. 疎山仁禪師根脚七道語訣、根脚語訣 ②一卷 ③存 ④南英謙宗(嘉慶元一寛正元 A.D.1387-1463)評 ⑤正徳四刊 ⑥(駒大)

疎山仁禪師根脚七道語訣 ①(日)So-zan-nin-zen-jī-kon-kyaku-shi=chi-dō-go-ketsu. 疎山仁禪師根脚語訣、根脚語訣 ②一卷 ③存 ④南英謙宗(嘉慶元一寛正元 A.D.1387-1463)評 ⑤正徳四刊 ⑥(駒大)

曾谷氏への御書 ①(日)So-ya-shi-e-no-go-shō. ②七篇 ③存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第四 ④日蓮(貞

率、疎、曾、評、楚

應元一弘安五 A.D.1232-1283)記

①日蓮聖人御遺文之内から曾谷入道教信宛の消息七篇を輯めたもの。即ち(括弧内は異名)曾谷入道殿御書(自界叛逆御書、與富木曾谷兩氏書)曾谷入道殿返事(方便品長行事、與曾谷氏書)法蓮鈔(法蓮慈父十三年供養法華經文字成生身佛事、大長星鈔御難鈔)成佛用心鈔(與曾谷氏書)如是我聞鈔(曾谷入道殿御消息)曾谷殿御返事(燒米抄、曾谷抄)曾谷二部入道殿御報(破三大師、報曾谷入道書)の七書である、内容は各篇名の項を往見。この外にも曾谷氏宛の消息に重要な法門を藏する御書少なくない。

曾谷入道殿御書 ①(日)So-ya-nyū-dō-dono-go-shō. 自界叛逆御書、與富木曾谷兩氏書 ②一篇 ③存、日蓮聖人御遺文之内 ④日蓮(貞應元一弘安五 A.D.1232-1283)記 ⑤文永一一(A.D.1279)

曾谷入道教信に與つて、自界叛逆、他國侵逼の兩難經文に符合せるを以て佛法の邪見によると斷じ、邪見として眞言・禪・念佛の三宗を擧げ、三宗の中には特に數山の邪義たる慈恩大師の理同事勝を難じた書である。

曾谷入道殿御返事 ①(日)So-ya-nyū-dō-dono-go-hen-jī. 方便品長行事、與曾谷氏書 ②一篇 ③存、日蓮聖人御遺文之内 ④日蓮(貞應元一弘安五 A.D.1232-1283)記 ⑤文永一一(A.D.1280)

曾谷入道教信のために方便品の長行の段を書寫して其父十三回忌の供養に供した時

の添狀で、法華經は一々文々皆生身の釋尊であるから、此經を信じて靈山淨土へ往詣するやうにと勧めた書である。(馬田行啓)

曾谷入道殿許御書 ①(日)So-ya-nyū-dō-dono-mo-go-shō. 太田禪門許御書、構索鈔、金吾鈔、曾谷鈔 ②存、日蓮聖人御遺文之内、日蓮聖人全集第四 ④日蓮(貞應元一弘安五 A.D.1232-1283)記 ⑤文永一一(A.D.1275)

⑥重病を治するに良藥を構索するに譬へて、正・像・末三時の次第と教・機・時・國の、適否及び教法流布の關係とを説き、末法の現時は導師に就て言へば他宗は勿論、天台傳教等の如き迷門立教の人も其の利益を失ひ、法華經と雖廣き一部八卷よりも略たる本門壽量品一品、一品よりも更に肝要たる妙法蓮華經の五字を教體とせざれば救はれざることを説いた重要御書である。末尾に曾谷・太田(乘明)の領内にある諸寺の一切經論を集めて身延山に納めるやうにと依頼してある。蓋し度々の難に紛失し又は竊本となつた書籍を整頓するためである。

⑦(參考) 録内啓蒙三、御書鈔一九、録内扶老一二等 ⑧(中山法華經寺)(馬田行啓) 訴狀 ①(日)So-jī. ②一篇 ③存、日蓮宗々學全書上聖部 ④日辨(延應元一應長元 A.D.1239-1311)記 ⑤永仁元(A.D.1293)

⑥永仁元年鎌倉に大地震あり寺社等の被害多大にして横死する者少なからざるを見、「立正安國論」に添へて、速かに念佛・禪・律等諸宗と公場に對決し、法の邪正を決して捨邪歸正し、以て天下泰平國土安全を將來せんことを幕府に祈請した訴狀である。篇中に烈々たる信念と意氣とが溢れてゐる。

楚州和尚譜略 ①(日)So-shū-o-shō-fū-yaku. ②一卷 ③存 ④(參考) 楚州禪師語錄 ①(日)So-shū-zen-jī-go-roku. ②一卷 ③存 ④楚州語、真紹(禪統)編 ⑥(參考) 禪籍目錄

楚石西齋淨土詩 ①(日)So-seki-sai-sai-jō-do-shi. (支)Ch'u-shih-hsi-chai-ching-t'u-shih. 西齋淨土詩 ②三卷 ③存、已綴二・一三・五、淨土十要第八 ④元梵琦(元貞二一洪武三 A.D.1396-1370)撰 ⑤西齋淨土詩の下を見よ。⑥寛文一一刊 ⑦(正大、一五三二・八四)(谷大、宗大・四五三)

楚石禪師語錄 ①(日)So-seki-zen-jī-go-roku. (支)Ch'u-shih-ch'an-shih-yū-lu. 楚石楚琦禪師語錄、佛日普照慧辯禪師語錄、楚石錄 ②二十卷 ③存、已綴二・二九・一一 ④元梵琦(元貞二一洪武三 A.D.1296-1370)語、祖光等編 ⑤刊本 (谷大、餘大・二六)(帝國、八二・一一六三)

楚石楚琦禪師語錄 ①(日)So-seki-zen-jī-go-roku. (支)Ch'u-shih-ch'an-shih-fan-ch'i-ch'an-shih-yū-lu. 佛日普照慧辯禪師語錄、楚石禪師語錄、楚石錄 ②二十卷 ③存、已綴二・二九・一一 ④楚石楚琦(元貞二一洪武三 A.D.1296-1370)語、雲紹、良彦、胤丘、善成、正參等編

①元聖行端禪師の法嗣として、南岳下二十世の法統を繼ぎ元の末期に大慧下の宗風を擧揚した勅賜佛日普照慧禪師楚石梵琦和尚六會の語錄偈贊法語等を法嗣祖光等が編録したもので、楚石七十二歳の元至正二十七年秋、錢惟善居士の序文を得て梓に附し、後、楚石禪師が明洪武三年七月二十六日(A.D.1370)壽七十五、臘六十三にして示寂された翌々月の九月初吉日に、楚石の法弟である紹興府崇禪寺の行中至仁和尙の撰に成る行狀、並に宋謙の序及び塔銘を附して流通せしめたものである。

續藏所收本に依つて、其の篇次を見るに、卷首に、宋謙(無相居士)の序及び錢惟善の序を収め、卷一に楚石二十九歳の元泰定元年冬に徑山興聖萬壽禪寺首座寮に在つて受請し初住せし福臻寺語錄(祖光等編)。卷二卷三に三十三歳の天曆元年二月三日入寺せし海鹽州天寧永祚禪寺語錄(文珪等編)。卷四に四十歳の至元元年七月二十五日入寺せし杭州路鳳山大報國禪寺語錄(曇紹等編)。卷五に四十三歳の至元四年八月八日入寺せし嘉興路本覺寺語錄(祖澄等編)。卷六に六十二歳の至正十七年八月一日入寺せし嘉興路恩光禪寺語錄(景璣等編)。卷七に次で再住せし天寧永祚禪寺語錄(良彦等編)。卷八は學人に垂語し自ら代語を以て其の要諦を示した代語(應新等編)。卷九は乘拂小參の語要(待者等編)。卷十、十一は古則を擧げて提撕せる舉古(明遠等編)。卷十二は頌古(風丘等編)。卷十三、十四には佛祖偈贊(文成正隆等編)。卷

十五は學人に示した法語(善成等編)及び偈頌(文斌等編)。卷十六より十九は偈頌(文斌等編)。卷二十は題跋記頌などの撰者に附して、明洪武元年九月十一日及び同二年三月十三日の二回に渉る明太祖帝の命により蔣山禪寺に水陸會を設け座說法せし水陸座の語要、並に法弟である紹興府崇禪寺行中至仁和尙の撰に成る楚石和尚行狀、法嗣楚中景璣和尚の依頼に依つて撰述した宋謙居士の佛日普照慧禪師塔銘とを収めたもので(中端正參等編)各卷末に音切が附けてある。

楚石は、諱は梵琦、字は楚石、小字曼曜、自ら西齋老人と號した。明州象山の朱氏に生れ、天寧永祚寺酌翁模和尚に趙孟頫居士の助力によつて難髮し、徑山の虛谷希陵、天童の雲外雲岫、淨慈の晦機元照などの當代の諸宗匠より稱譽せられ、徑山の元聖行端禪師に嗣ぎ、至正七年順宗帝より佛日慧辯禪師の賜號を與へられた。著作に、この六會語錄の外に、淨土詩、慈氏上生偈、北遊集、鳳山集、西齋集、和天台三聖詩等がある。淨土思想を抱き、天寧永祚寺に退隱して自ら西齋老人と號し、臨終にも夢堂颯和尚と西方去の問話をして居る。

楚林睿禪師語錄

(大久保堅瑞)

楚林睿禪師語錄 ①(日)So-rin-ei-zen-ji-go-roku. (支)Ch'u-lin-jui-ch'an-shih-yu-lu. ②二卷 ③存 ④清代上卷 (楚林)語、昭琮等編 ⑤(參考) 禪籍目錄 產亂神供秘密次第 ①(日)So-ran-jin-gu-shi-mitsu-shi-dai. ②一軸 ③存

⑤徳川時代寫 ⑥(寶龜院)

鼠刺棘

①(日)So-kei-hyoku. ②一

卷 ③存 ④土屋周山撰 ⑤(參考) 禪籍目錄

鼠雀問答

①(日)So-jaku-mon-do. ②二卷 ③存

④教行信證、愚禿鈔の大意を述べ、眞宗の教相を叙述したもの。

⑤(參考) 淨土眞宗教目録、淨土眞宗教典志第二 ⑥刊本(谷大、宗大・六〇五)哲、二・七・右・三四(龍大、一三〇・四五・四六)貞享三寫(谷大、宗大・二五六五)

鼠璞辨

①(日)So-boku-ben. ②一

③存 ④南英謙宗(嘉慶元一寛正元 A.D. 1387-1460)述 ⑤(參考) 禪籍目錄

蘇易龍王經

①(日)So-kechi-ryū-o-kyō. (支)Su-ho-lung-wang-ching. ②一

③存 ④失譯 ⑤(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

蘇軌眞言對注並句義

①(日)So-ki-shin-gon-tai-chū-narabini-ku-gi. ②一

③存 ④明覺撰 ⑤嘉保三(A.D. 1096) ⑥(南溪藏)

蘇頌里離法

①(支)So-kechi-li-ri-kyō. (支)Su-chieh-li-ri-chū. ②龍樹造

③南海寄歸內法傳卷四(大正五四・二二七〇) ④又龍樹菩薩以詩代書。名爲蘇頌里離法。譯爲「密友書」。寄與舊檀越南方大國王號婆多婆漢那。名「市寅得迦」云云」とあり、又義淨譯龍樹菩薩勸誠王頌(大正三二・七五一 No. 1674) ⑥最後に「阿離耶那伽易樹

那菩提薩埵蘇頌里密離法了」とし更に細註して「阿離野是聖。那伽是龍是象。易樹那義翻爲猛。菩提薩埵謂是覺情。蘇頌里即是親密。離法者書也。先云龍樹者訛也」とあるより見れば、蘇頌里離法即ち密友書なるものは、龍樹菩薩勸誠王頌に相當するものと思はれる。同項目の下並にその異譯勸誠諸王要偈、龍樹菩薩爲禪陀迦王說法要偈の下參照。

⑦(參考) 淨土眞宗教典志第一

蘇悉地

①(日)So-shi-ji. ②二

③存、大日本佛教全書第三六阿婆縛抄之内 ④承澄(元久二一弘安五 A.D. 1205-1282)撰

蘇悉地羯羅經

①(日)So-shi-ji-ka-ra-kyō. (支)Su-hsi-ti-chieh-lo-ching. (梵)Sūśiddhikāra-mahā-tāntṛa-sādhano-pāṭika-pāṭala(藏傳)(藏) legs-par-grub-par-byed-pñhi-tyud-chen-po-las-grub-pañhihsrim-par-pñhe-ba. 蘇悉地經、妙成就法、妙成就作業經 ②三卷 ③存、大正一八・六〇三 No. 893 縮開三、凡二一・七一八、北 28 讀、南 43 讀、元 43 讀、明北 529 克、清 529 克、麗 43 讀、天 435 讀、指 400 時、法 433 時、至 624 鼓、明南 335 羊、Nj. 533 ④唐輪波迦羅(貞觀一一一開元二二 A.D. 637-733)譯

⑤本經は、佛部、蓮華部、金剛部の三部に就いて、各々の持誦法則、諸曼荼羅並に種種の成就法を説いたものであつて、五部秘經、三部秘經の一である。當經は今述ぶ所の麗本の外に宋本及び和本(應永廿五年

惠淳刊)の二本があつて各内容に出入がある。次に此の三本の品名を比較すれば、

麗本(大正一八) 宋本(別本)(大正一八) 和本(別本)(大正一八)

品名 頁数 品名 頁数 品名 頁数

上巻

上巻

上巻

下巻

下巻

中巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

下巻

相品第三」には阿闍梨として諸徳を具へ、常に大乘經典を誦誦し、自ら曼荼羅を造り得る技能を有することが示されてある。

〔持誦眞言相品第四〕には、眞言持誦の法則よりは、寧ろ眞言持誦者の人柄に就て、委しく述べてある。〔同伴品第五〕には、有徳にして學識あり、知解勝れたる者を同伴となす可きを説き。〔擇擇處所品第六〕には、眞言持誦に依つて所願を成就す可き處所を擧げてある。息災・增益・降益等の修法の種類に依つて、因より一様には言はれないが、諸佛諸仙得道の所なぞは、成就を得る第一の場所と見られて居る。〔持戒品第七〕には持誦眞言者の行住坐臥は四威儀並に衣食・沐浴・談笑等に至るまで、常に注意を拂ふ可き諸事項が説かれてある。〔供養花品第八〕には、華の色と香と及び其華の草木の形狀等に依り、佛部・蓮華部・金剛部の各諸尊に依り、區別す可き事、又息災・增益・降伏等の作法に依つて、獻華の種類異なることが明されてある。〔燈香藥品第九〕には、燈香・末香・香丸・香水等の作り方が述べてある。〔燒香品第十〕には燒香に上中下の三等あつて、七種香を最上となし、堅木香を中華・葉・根等を下となし、三部の諸尊に應じて、異なる旨が説かれてある。〔然燈法品第十一〕には法則に依る然燈は諸佛諸天を歡喜せしむる意を述べ、次にその邊に金・銀・熱銅・泥瓦等から成るものの別があり、燈柱には白旛花・新旛布・緋句羅樹皮・新淨布などを用ふる。次に香油に上中下の三品あり、息災法には上香

油、增益法には中香油、降伏法には下香油を用ふる。〔獻食品第十二〕には、圓根・長根・葉・酥油・餅・粥等の食を諸尊に供するのであるが、三部の諸尊に依り、又息災等の三種作法に依つて、獻食を異にすることが詳かに示されてある。〔以上、卷の上に於て明き。〕

〔扇底迦(Sandika)息災〕法品第十三〕息災法とは災害を止息し、善行を圓滿することを目的として修するものであるが、此の法は白月一日黄昏の時に起首する、この時には淨居天が下つて人間の世界を遊歴して居るから、善法成就に適すると言はれて居る。行者は白衣を着して面を北に向けて修法し、護摩木には乳木を用ふるなどのことが明されてある。〔補誦微迦(Daridra)增益〕法品第十四〕この法は開運榮達等を目的として修するもので、息災法を出家法とすれば、此の法は在家法に當る。この法は白月十五日の寅の刻に起首する。壇上の正面に觀自在菩薩を安じ、その右邊に大勢至、左邊に觀世音の持明王を安ず。〔阿毘遮略迦(Adhicra)降伏〕品第十五〕これに降伏法が明されてある。降伏法とは行者が心に瞋怒を懷て、惡人を治罰する爲めに修するもので、起首の時日は瞋怒の高つて居る時を選ぶ可きであるが、又黒月の八日若しくは十五日の日に於て、起首するのが常である。毘舍(Pisaca)諸鬼及び部多(Bhuta)羅刹(Raksa)等を本尊とし、行者は赤衣若しくは青色服を着し、南に面を向け、右脚を以て左脚の上を踏み、黒土を以

て壇を塗り、護摩には苦練木等を用ふるなぞと説かれてある。これ固より在家法である。〔成就法品第十六〕は、一名悉地相品とも云ふ。上品の悉地・中品の悉地・下品の悉地の三種あり、これ三品の各々に更に三品あり、併せて九品の悉地相がある。空に乘じて而して進み得るを最上の悉地相となし、藏形隱跡を中成就相となし、世間の諸事、意の如くなるを下成就相と爲す。又自分の悉地を上品の成就となし、諸藥の悉地を中品の成就となし、富饒の悉地を下品の成就となす。次に聖者の眞言を誦すること依て、上成就を得、諸天の眞言に依り、中成就を得、無天の眞言に依つて、下成就を得ると説く。〔奉請本尊品第十七〕には本尊を召請し、若しくは發遣する方法が示されてある。諸召の時には、その部の明王の眞言と印とを用ひ、關伽(Āṅgā)を獻じ、恭しく本尊に對して、本尊聖者は、本願を以ての故に、此の道場に降赴し玉へり、願くは哀愍を垂れて、此の關伽及び微獻供を受け玉へと念ずる。〔供養次第法品第十八〕、一名念誦法と云ふ。念誦を爲す時には、壇を構へ、本尊を請召し、先づ燈香・華・燈香・飲食・然燈を供ず、若し此等の物なき時は、それ等の眞言並に印を以て之れに代用し、次に關伽を獻ず。次に忿怒明王の眞言を誦じて諸の爲障者を遣除す。又五種の護衛法あり、道場内に於て之を行ず、金剛續・金剛樂・金剛舞・吉利枳羅・甘露軍荼利が即ち其れである。坐法は枝葉を座具となし、この座具の上に於て、息災法の時には結跏趺

坐し、增益法の時には、半跏坐、降伏法の時には兩足を垂れて坐す。數珠に關しては佛部念誦の時には菩提子珠の數珠を用ひ、蓮華部には蓮華子珠、金剛部には瑪瑙羅叉子の數珠を用ふ。この外に持誦者の用心、並に悉地成就の微候等に就て述べてある。〔光顯法品第十九〕には本章の威光を陪増し、之れに依て祈願を成就することに成るが、その威光陪増の方法として護摩が擧げである。〔灌頂本章法品第二十〕には、本章の威徳を陪増する爲に、關伽を以て本章を灌頂することが明されてある。〔祈驗相品第二十一〕には、祈請の効驗の有無を夢に依つて判定することを明し。〔受眞言法品第二十二〕には、阿闍梨に隨つて、眞言を授かる場合に、弟子として爲す可き事柄が示されてある。〔滿足眞言法品第二十三〕には、阿闍梨から授けられた、眞言が満足したものであるか否やは、持誦者が夢中に於て眞言主の身相を見る時に、眞言の字の過不及を知ることが出来ることが明されてある。〔增威品第二十四〕には、祈請の威力を増さんとする時に、護摩を行じ、その護摩に於て酥蜜を用ふる時と、乳を用ふる時とに依り別の効驗があるなどの事を述べてある。〔護摩法則品第二十五〕には護摩に關する法則が示されてある。先づ火天を請召して護摩即ち燒供を行じ已つて、次に本章を請召して燒供を爲し、護摩を都て了て、復火天に残餘の供物を獻する等と説く。〔備辦持誦支分品第二十六〕には、眞言を持誦するに當り、必要なる五種堅香・

七懸香・五穀・五寶・五藥・五色線等が擧げてある。〔成就諸物相品第二十七〕には、如意寶珠・寶瓶・雨寶・伏藏・輪・雌黃・刀の七物を上の中となす、此等は種々の悉地を成就し、福徳を増すと旨はれてある。その他に佛頂・蓮華・三股杵・雄黃・牛黃・刈哩迦藥・安勝那藥・白氈布・花鬘等が成就物として擧げられてある。〔取成就物品第二十八〕には成就物を取る時節と時刻と、及び其の取り込む方法が示されてある。〔淨除諸物品第二十九〕には、成就物を洗淨する方法が明されてある。〔諸物量數品第三十〕には、成就物としての雌黃・牛黃・雄黃・安勝那等の量に依つて、成就の相に於て上中下の別あることが説かれてある。〔除一切障大灌頂曼荼羅法品第三十一〕には、灌頂大曼荼羅が明されてある。根本大曼荼羅は方四角にして、四門を設け、その量は八肘或は七肘若しくは五肘にして、四門を開き、界道あり、この大曼荼羅の西方に、灌頂曼荼羅を設く、その量は五肘又は四肘又は反肘にして、唯東門を開くのみ、凡そ曼荼羅の四門の中には、拔折羅(Vijra)金剛杵を置き、中台には本尊の印を置き、一瓶を置く、曼荼羅が成立し已つてから、如法に三種の事護摩を行す、毘那夜迦(Vinayaka)を遣除するが爲に、降伏法を修し、自己の利益の爲に増益法を修し、諸の災難を止息するが爲に、息災法を修す。〔光顯諸物品第三十二〕には、三部の光顯の眞言を明す。光顯とは修法の効力を増大する意である。曼荼羅の中台に部主の印を置き、成就物を、そ

の部主の中台の印上に安ずるなど、法事を光顯ならしむるものであるが、諸の光顯中に於て、護摩を修するを最勝とすと説てある。〔以上中卷〕〔悉地時分品第三十三〕には、修法の吉祥成就す可き時分が明してある。八月・臘月・正月・二月・四月・これ等の五ヶ月の白の十五日に修する法は上成就をなす。但し四月には雨難あり、二月には風難あり、正月には種々の難あり、臘月には諸の難事なく、八月には雷雹霹靂の難あり、如上の難が発生するのは皆成就の相である。この五ヶ月に成就せんとするものは、息災法に限らる。増益法は五月の黒の十五日に行ずれば効あり、降伏法は日月蝕時に行ずれば効あり、などと説かれてある。〔圓佛成就品第三十四〕には、行者の帶する成就物としての白氈繩が明されてある。その他僧洗を除く爲めの眼藥並に成就の前光等が示されてある。〔請尊加破成就品第三十五〕には、曼荼羅の外門は軍荼利明王に依て護られ、第二重門は訶利帝母に依り、中台の門は無能勝に依て護らる。この三聖者は能く諸難を摧き、成就物を護ると説かれて居る。〔補闕少法品第三十六〕には、曼荼羅・三藏多法・成就物・三部秘密曼荼羅・蘇悉地羯囉明王、並に十方來の難相と諸天部との關係が説かれてある。〔被偷成就物却微法品第三十七〕に於ては、窃取せられた成就物を取戻す修法と、及び悉地成就法とが明してある。又た不成就の場合に、本尊を苦治する修法が示されてあるが、此は諸儀軌中に於ても極めて稀に見る例である。

⑦〔參考〕開元錄第九、貞元錄第一四 ⑧平安朝時代寫(寶善提院)鎌倉時代寫(寶龜院)(寶善提院)應永四刊(寶壽院) (神林隆淨) 蘇悉地羯囉經 〇(日) So-shi-ti-ka-a-kyō. (支) Sa-hsi-ti-chih-lo-ching. ③三卷 ④存、大正一八・六三三No. 893 (別本)一北88讀、南33讀 ①上卷には諸問品第一、(六三三、C)、眞言相品第二(六三四、A)、阿闍梨相品第三(六三五、C)、同伴相品第五(六三六、A)簡擇處所品第六(六三六、C)、戒法品第七(六三七、A)、供養華品第八(六三九、B)、檀香藥品第九(六四〇、A)、燒香品第十(六四一、A)、然燈法品第十一(六四一、C)、獻食品第十二(六四二、A) 中卷の初に第十三品、第十四品、第十五品を缺く。分別成就品第十六(六四四、A)、奉請品第十七(六四四、B)、供養品第十八(六四五、A)、光顯品第十九(六四九、B)、本尊灌頂品第二十(六四九、B)、祈請品第二十一(六四九、C)、受眞言品第二十二(六五〇、B)、滿足眞言品第二十三(六五〇、C)、増力品第二十四(六五一、A)、護摩品第二十五(六五一、A)、佛物品第二十六(六五一、C)、成就諸相品第二十七(六五二、A)、取物品第二十八(六五二、B)、淨物品第二十九(六五二、C)、物量品第三十(六五二、C)、灌頂壇品第三十一(六五三、A)、光物品第三十二(六五四、A)、下卷に於て、分別悉地時分品第三十三(六五五、A)、

圓佛成就品第三十四(六五五、B)、奉請成就品第三十五(六五六、A)、補闕少法品第三十六(六五七、A)、補偷成就物却微法品第三十七(六六〇、C)、成就具支法品第三十八(六六二、B)。 本經は事作法に關して、極めて必要な注意が示されて有つた、事作法に従事する眞言行者の必讀の經である。蘇悉地(Su-shi-ti-ka)羯囉(Ra)とは譯して妙成就作法と云ふ。眞言行法は成就を目的として居る。成就中の最上なるものを成佛と見做し、その他の成就法をば有相方便道と見做してある。成佛以外の作法は、行者を佛一乘道に招致する方便と成るからである。世間出世間何れの願でも、皆悉く成就圓滿し得るのが眞言妙行である。隨つて眞言妙行には法の成就を目差して居るのであるが、法則に該當しない修行方法では、如何に努力精進しても、悉地成就することは絶対に不可能である。その修行の法則を委曲に説明してあるのは、本經を措いて他には無いと言ふも過言ではない。儀軌は皆修行法則を示して居るのではあるが、此の經程に整頓して説かれてあるものは、他には殆んど無いと言つても宜い位である。この意味に於て、本經は眞言行者必讀の聖典と言ふ可きである。 本經は宋本に元本明本、及び貞享三年淨嚴の校訂本を校合したものである。麗本の蘇悉地羯囉經を参照せられたい。 (神林隆淨) 蘇悉地羯囉經 〇(日) So-shi-ti-ka